

法人第12期

2022.7

2023.6

桜ライン311 活動報告書

Sakura Line 311
ANNUAL REPORT 2022



認定特定非営利活動法人 桜ライン311

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1
高田大隅つどいの丘商店街12号

0192-47-3399 (TEL) 0192-22-8989 (FAX)

info@sakura-line311.org <https://www.sakura-line311.org>

表紙は陸前高田の津波到達ラインに咲く桜をイメージしています

「私たちは悔しいんです。」

という言葉のもと、仮設住宅の小さな集会所で始まった桜ライン311の活動も、2023年7月1日をもちまして法人第13期目を迎えることができました。

組織を預かる身として継続の難しさを実感することも多々ありますが、皆さまのお力添えによりこうして事業を継続できていることに心から感謝申し上げます。

東日本大震災の大きな被害は津波によるものでした。必ず起きる次の大震災の時に、人的被害をどれだけ軽減できるか。それが東日本大震災の教訓を後世に伝えられたかということに直結していると私たちは考えています。そのための「伝承」です。

「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」このビジョンを達成するために、陸前高田市に避難の目印となる桜の並木を作り、保存し、その意味を伝承

していくこと。そしてその過程に震災を経験していない人にも関わってもらい、災害を「他人事」(ひとごと)ではなく「自分事」に変えてもらうこと。今も設立時と変わらない私たちの願いと覚悟です。

2011年11月、まだ町の至る所に瓦礫が残るなか初めて行った「桜」の植樹から12年。新型コロナウイルスの影響もあり、一時開催を中止した時期もありましたが、植樹事業にご参加いただいた方は累計7,831名、植樹の許可をいただいた地権者さまは400名を超え、植えた桜は2,130本となりました。目標としている17,000本までは長い道のりではありますが、こうしてご縁をいただいたこの過程に多くの皆さまの共感とお力添えがあることが、私たちにとって大きな原動力となっています。

初期に植えた桜は大きなものになり、花をたくさん咲かせるものも出てきていま

す。同じように私たちの願いと覚悟も、皆さまの心のうちに減災への意識を育てていきたいと思っています。

今年の3月11日そして4月の満開時には、高田町浄土寺の桜のライトアップを実施いたしました。クラウドファンディングにご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。おかげさまでインターネットでの生配信を含め、多くの方々にご覧いただくことができました。現地で見つめる人々の表情からは、喜びや悲しみ、願いといったそれぞれの思いを感じ取ることができました。たくさんの方にライトアップを見守っていただき、私たちとしてもとても感慨深い気持ちになりました。

夜間でも避難の目印として分かるように視覚化するという意味ももちろんありますが、それに付随して震災により多くの桜が失われたこの街において住民の皆さまの追

憶の桜となるよう、今後も月命日にライトアップを行い、多くの方にその意味をお伝えしていきます。

また5月には新型コロナウイルスも5類へと移行になりました。流行以降、感染防止対策として個別による実施形態での植樹会を続けてまいりましたが、この秋の植樹シーズンは、4年ぶりに集合型の植樹会を開催することができました。また、個別による植樹会も併せて実施することで広く参加者を募り、桜の植樹活動を進めてまいります。本年度も引き続きご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

認定特定非営利活動法人 桜ライン311

代表理事 岡本 翔馬

役員・事務局一同

撮影日：2023年3月31日 陸前高田市高田町浄土寺
植樹日：2011年11月6日 カワヅザクラ3本

私たちは、悔しいんです。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、1時間以内に東北各地を津波が襲いました。

陸前高田市でも多くの人が時間を止めました。

その後、「実は、今回と同規模の津波が三陸沿岸を飲みこんだ記録や痕跡がありました。」との、ニュースが流れていました。

10mを超える津波の可能性が、震災前から声高に叫ばれていれば！

震災前の防潮堤には、限界があることを知らされていれば！

津波によって奪われた命は、もっと少なくて済んだのではないか？

その思いが、今も頭を巡ります。

私たちは、悔しいんです。

その思いを同じくする者が集まり、「桜ライン311」を立ち上げました。

次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。

現在、瓦礫撤去が進み、津波の到達点がぼやけ始めている今、一日も早く、やりたいんです。

でも、私たちだけでは、限界があります。

皆さんの力を貸してください。お願いします。

(2011年10月)

撮影日：2023年4月3日 陸前高田市広田町六が浦

植樹日：2022年11月12日 エドヒガンザクラ

事業報告 植樹事業

桜ライン311の三本柱の一つである植樹事業は、東日本大震災の津波の最高到達点へ桜を植え、後世に避難の目印を伝えることを目的としています。設立以来、毎年、春と秋に2回ずつの植樹会を基本に活動を継続してまいりました。今年度末時点で2,130本の桜の植樹が完了しています。これもひとえに地権者さまのご厚意と累計7,863名にも及ぶ参加者さまのご協力のおかげです。

秋植樹では13箇所74本、春植樹では10箇所78本の植樹を行い、538名にご参加いただきました。2022年11月16日の植樹会では、累計本数が2,000本を達成しました。学校植樹会では、地元小学校を含め秋に4校、春に1校に参加していただきました。今年度も新型コロナウイルス感染防止に取り組んだため、すべての植樹活動は個別開催としました。また、植樹会に使用する苗木購入については、公益財団法人三菱UFJ環境財団さまの助成金が一部充当されたため、苗木寄附募集の本数が減少しました。

これまで植樹した桜は、毎年、すべての桜の生育状況、病虫害確認、鹿などによる獣害確認を行い、必要に応じて薬剤散布や鹿の忌避剤取り付けを行っています。この作業は全箇所確認と呼び、桜の成長度合いを確認するために、一本ずつ記録写真を撮りデータ管理を行っています。

第11期では、猛暑による地熱から根を守るためゴザを敷いたり対策を取った造成地の桜ですが功を奏し、枯れたと思われた桜も、この春新たな芽吹きを確認することができました。

植樹活動も10年を超えると対策しなくてはならない問題が増えてきます。最初の数年は、鹿害対策。近年では猛暑による乾燥対策。そして最近「花が少ない」というご指摘への対応です。そこで、花芽を増やすために草刈りと同時にリン系肥料を根の周りに追肥しました。来春に効果が表れ、花が多くなることを願っています。

当団体の活動は、桜を並べることが最終目的ではありません。三陸沿岸を繰り返し襲う津波による犠牲者をなくすこと。さらには、日本中で発生している自然災害による人的被害をなくすことが目的です。

そのためには、100年先も1000年先も「なぜ桜のラインができていくのか」が伝わるように活動を続けなくてはなりません。あの日、私たちが感じた悔しさを誰にも繰り返させないように地域の皆さま、そしてご協力いただいている皆さまとともに歩み続けてまいります。



01) 草刈作業中に鹿に遭遇 02) 2022年秋の植樹会(撮影場所:気仙町) 03) 地権者さまと土地交渉
04) 夏の桜のお手入れ会風景 05) 2023年春の植樹会(撮影場所:広田町) 06) 新規の取り組み。リン系肥料の追肥

植樹会

2022年11月12日～12月12日	秋の植樹会(29組194名)
12月17日	理事植樹会
2022年3月4日～25日	春の植樹会(32組194名)
4月1日	理事植樹会

植樹実績推移

2011年	34本(18箇所)
2012年	376本(100箇所)
2013年	647本(161箇所)
2014年	766本(188箇所)
2015年	932本(201箇所)
2016年	1,088本(228箇所)
2017年	1,324本(268箇所)
2018年	1,420本(284箇所)
2019年	1,575本(314箇所)
2020年	1,705本(333箇所)
2021年	1,869本(368箇所)
2022年	1,978本(382箇所)
2023年	2,133本(406箇所)

累計参加人数

2011年	57名
2012年	697名
2013年	1,412名
2014年	2,143名
2015年	2,779名
2016年	3,535名
2017年	4,443名
2018年	4,779名
2019年	5,780名
2020年	6,341名
2021年	6,759名
2022年	7,166名
2023年	7,831名

学校植樹会一覧

2022年11月11日	陸前高田市立米崎小学校
11月22日	陸前高田市立気仙小学校
12月1日	陸前高田市立小友小学校
12月7日	一関市立桜町中学校
2023年3月17日	岩手県立大東高等学校

※2023年4月末時点の植樹実績及び参加実績になります。

事業報告 普及啓発事業

「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」

桜ライン311ではこのビジョンの達成を目指して、日本全国での講演のご依頼に対応しています。現地での体験に勝るものはありませんが、お住まいの地域で防災減災を考えるきっかけとして、また当団体の活動を知ってもらうきっかけとして、普及啓発事業は大切な柱の一つとなっています。

第12期も新型コロナウイルスの影響があったものの5類へ移行したことで、陸前高田市にお越しいただき講演を実施する機会が増え、今まで止まっていたものが動き始めたと感じるシーズンでした。今期は合計49回、1775名の皆さまにお話させていただき、統計を開始して累計聴講者数は25,000名を超えました。現在に至るまで、多くの方が支えてくださっていることを実感しています。

コロナ禍を機に個別開催としてきた植樹会ですが、企業や教育機関から講演とセットでご依頼いただくことが増え、防災減災を考える機会として大変有意義な時間だと感じています。

また、組織運営に関わるもののご依頼も多く、東日本大震災をきっかけに設立した団体として10年以上活動してきた実績や経験をお話させていただいています。

まだまだ未熟な部分はありますが、講演を通して少しでもNPO法人の皆さまのお役に立てるよう、またNPO運営のモデルケースの一つとして参考にしてもらえるよう、日々精進してまいります。

講演機会をいただくことは当団体の活動への「支援」や「参加」の一つと考えています。

ご依頼いただきました皆さまに、改めて心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

防災とは、さまざまな種類の災害から人命や財産を守る対策の総称になります。

減災とは、災害による被害をできるだけ少なく抑えようとすることです。

皆さまにより身近に捉えてもらえるよう、国内外で多発している台風または集中豪雨による水害や土砂災害などを例えにしています。近年では線状降水帯や記録的短時間大雨情報など、雨に関わる情報を耳にすることが多くなりました。豪雨災害の特徴の一つは、発生まである程度の時間があることです。そのため、屋外の植木鉢など強風に耐えられないものを避難させたり、室内では貴重品など2階や部屋の高いところへ移動させたり、備蓄品を確認したりと備えることができます。しかし、身を守る上で一番の対応は早めに避難することです。自分自身が危険な地理条件にいるのか、ハザードマップで危険性を把握できますので、防災アプリの活用やエリア情報と合わせて、より多くの情報を正しく取得し避難や対応の一助としていただきたいと思います。

最後になりますが、第12期においても緊急人道支援を目的とした募金活動を実施いたしました。2023年2月に発生した「2023年トルコ・シリア地震」に際しお預かりした152,305円は、全額、日本赤十字社を通して現地の医療支援として送金いたしました。当団体の緊急人道支援の募金活動に関わってくださった全ての皆さまに、改めて御礼を申し上げます。



01) 学校植樹会(米崎小学校) 02) 植樹前の事前学習(気仙小学校) 03) 学校植樹会(小友小学校)
04) 復興学習陸前高田視察(花巻市立南城中学校) 05) 植樹会 黙祷(岩手県立大東高等学校) 06) 震災復興学習(高田小学校)
07) 「震災報道を考える～若手記者座談会～」に参加 08) 緊急人道支援活動 募金箱設置 ※米崎・気仙・小友・高田の4校は陸前高田市立

義援金募集

トルコ大地震義援金募集

発 生	2023年2月6日
実施期間	2023年2月9日～3月31日
募金総額	152,305円
送 金 先	日本赤十字社「2023年トルコ・シリア地震救援金」

募金活動にご協力頂いた店舗一覧

一般社団法人トナリノ	川の駅 産直よこた	旬味旬彩 鮭まつ田
伊東文具店	キャピタルホテル 1000 株式会社	食堂カフェ仙華園 × クレープ仙華園
おかし工房 木村屋	熊谷珈琲店	昇龍厨房 四海桜
菓子司 東海堂	SAKE's BAR 酒場 THE 陸丸	中華食堂 熊谷
カフェレストラン クローバー	産直はまなす 陸前高田	やぶ屋
	ジャズ喫茶 h. イマジン	陸前高田 発酵パーク CAMOCY

※五十音順

事業報告 政策提言事業

政策提言事業は桜並木を防災・減災だけでなく、桜をまちづくりの一部として活用してもらえよう提言し、事業実施していくことを目的とした事業です。東日本大震災や津波、そして復興といった言葉ではないもので、陸前高田市を知り訪れる人が徐々に増えてくれたらと思っています。桜を育てていくなかで徐々に文化となり、桜と街と人が支えあうような未来を目指しています。

2022年秋に陸前高田市立博物館の開館をもって、11年半にわたる復興工事が完了となりました。瓦礫の撤去から始まり、嵩上げ工事に防潮堤の再建、そしてインフラの整備、公共施設の復旧と長い道のりではありましたがひと段落つきました。これまでに携わっていただいた、市役所をはじめ全国の関係各所の皆さまのご尽力に敬意を表し、心から御礼申し上げます。23年5月のコロナの5類移行に伴って、数年ぶりに陸前高田市への来訪者が増え、街の変化に驚嘆される方も多く見受けられました。一方で嵩上げた中心市街地には更地がまだまだ大きく目立つのも事実で、これからの大きな課題です。

私たちの植える「桜」は、まちづくりにおいて景観や植栽の分野でもあります。まちづくりにどう活かせるか、活かしていくかはこれから長い時間が必要です。今年度も陸前高田市と連携のもと植樹許可をいただき、行政所有地への植樹本数は累計で331本となりました。12月か

ら2月の間、クラウドファンディングをし、最初の植樹地でもある浄土寺のライトアップを実施させていただきました。3月に初回点灯を行い、4月の満開の際には複数のメディアに取り上げていただいたこともあり、本当の多くの方が桜を見に来てくれました。震災以前、高田町にあった酔仙酒造株式会社の工場敷地内に桜の広場があり、桜まつりの会場として開放され、市民に親しまれた場所がありました。同様に私たちの桜の植樹地も市民に愛される場所に育ってくれたら嬉しいです。

また当団体では2014年から祈念公園設置に関わる有識者委員会への参加を中心に、継続的にまちづくり部分での利活用の提言を行ってまいりました。現在はほぼ全面で共用されていますが、公園の基本コンセプトは作って終わりではなく多くの皆さまに利用され愛される公園を目指しています。また、新たに市内でお手伝いさせていただく予定のプロジェクトもあり23年は忙しくなりそうです。

私たちの活動趣旨は、震災の風化防止と伝承が目的です。そこへの多くの方の共感で成り立つ組織でもあります。一方で多くの方に愛される桜として認知してもらえるような面も長い視点からは必要なことだと思っています。皆さまのご期待を預かり運営する組織として、原点を忘れることなく、陸前高田市に少しでも貢献できるような関わり方を継続していきます。



01) 満開時のライトアップ 02) テレビ取材を受ける代表理事岡本 03) 満開の桜の下に集い談笑する市民
04)、05)、06) 2022年9月 いわて復興未来塾登壇
07) この春、市有地に植樹したオオヤマザクラ 08) 高田町 酔仙酒造跡地に植えた桜ライン



事務局報告

今年度では、長期活動を継続するための体制づくりに主眼を置いて、2つの助成金を活用させていただきました。

1つは、長期的に桜のメンテナンスに関わっていただく方を増加させるための事業を実施しました。実施にあたっては大和証券フェニックスジャパン・プログラムより助成をいただきました。

この事業では、メンテナンスに関わる物品の購入、長く関わっていただくための組織づくり、そして、地元の方が当団体の活動に関わっていただくきっかけとなるイベントの企画を行いました。イベントは、講師となる「小さな草木染め工房手楽木芸(てらこう)」の寺嶋康平さまとの出会いもあり、剪定枝を活用した草木染め講座を計6回開催しました。非常に好評をいただき、

毎回定員が埋まる人気企画となりました。植樹会に参加することが体力的に難しい方でも、当団体の活動に触れる機会として、今後更に発展していくものになったと思います。

もう1つは、東日本大震災現地 NPO 応援基金を活用させていただき、人事評価に関する整備を行いました。当団体で掲げるVMVに則して、スタッフの働きを評価に反映するための制度作りを専門家招聘のもと行いました。樹木管理などを専門的に行うスペシャリストコース、マネージャーとして組織的な成果を目指すマネジメントコースの2種による等級制度を導入し、併せて行動指針を規定することとしています。この評価制度導入により、更なるスタッフのチャレンジを促進したいと考えています。



副代表理事の伊勢が2022年8月に産休に入ったため、同月、高田町在住の嶋村が植樹チームとして入局しました。嶋村の主な役割として、伊勢に代わり植樹地確保のため、地権者さまとの交渉を担うことにあります。

持ち前の明るさや地元出身の強みを生かしたコミュニケーション能力の高さもあり、スタッフからの即戦力という期待値も上がります。しかし、団体活動や桜の育成など初めてのこともあり、まずは桜の品種・管理・植樹などの基本的な知識の習得に注力しました。これは地権者さまとの交渉においても、所有される大切な土地にどのような桜が植樹されるのか、メリットデメリットなどを話し理解を得て、お互いが今後も良好な関係を築く上で大切なことです。

知識の習得には、全箇所確認作業に同行して、実際に見て触れ、作業をすることで経験値も積んでいきました。

また合わせて、スタッフの一員として地権者さまに認知していただけるよう嶋村の紹介も兼ね、地域の方との交流を心がけました。この交流から新たな植樹地の確保に繋がることもあり、作業の手を止め地域の方との信頼関係の構築に努めました。

育成期間5ヶ月を経て、嶋村に植樹地確保に動いてもらい11件44本分の成果に繋がり、今後も土地の確保が課題となっている植樹チームにとって大きな財産になるよう育ててまいります。



事務局報告

クラウドファンディング報告 ～津波到達点を知らせる夜桜ライン～

東日本大震災でお亡くなりになった方への追悼の意を込めて「この桜よりも高いところへ避難せよ」というメッセージと桜の存在意義を、より伝えるための看板も設置することを目的に、2022年12月から2023年2月までクラウドファンディングサイトGoodMorningを利用し「津波到達地点のサクラをライトアップしたい!」として、目標金額300万円に挑戦。結果、累計人数151名・約160万円(詳細は下記の通り)が集まりサイト上では達成することができませんでした。ゆうちょ口座へのご寄附も合わせライトアップにかかる費用を捻出することができました。

ご協賛およびご協力をいただきました皆さま、そしてSNS等で「いいね」「シェア」をしていただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

前回のクラウドファンディングに比べ期間前半のご参加が低く、サイト内での活動報告やSNSでの周知の遅れなどが要因と考え、その後、支援者さまの声や日々の活動の様子など週1回ペースで投稿いたしました。そのおかげか後半は順調にご参加いただきましたが、目標金額を達成できず、今後のキャンペーンなどへの取り組み方に課題を残しました。

さて、ライトアップを実施したのは、住民の皆さまにご迷惑がかからないよう公共性の高い、桜ライン(桜並木) 始まりの地となる浄土寺(陸前高田市高田町)の4本の桜です。

9基の照明機材で光量を調整し桜を照らし、足元にはライトアップの意味を表示した看板を設置しました。

初回点灯日(3月10日)と満開時(3月31日)には、返礼品として点灯の様子を動画撮影し、また現地に来られない方への報告としてInstagramやYouTubeでのライブ配信も実施。桜の存在意義を周知するためにプレスリリースを行った効果もあり、テレビ中継や新聞掲載され、分かる範囲で延べ12社に取り上げていただきました。

おかげさまで地元はもちろんのこと県内外から反響があり、現地でお話を伺った方には静岡県からお越しいただいた方もおりました。特に反響が大きかったのは、地元新聞・岩手日報の朝刊1面に満開時のライトアップが掲載され、その日は日中から人が途切れず、時間の経過とともに地元民から内陸の方、県北の方とどんどん遠方の方が集まって、点灯時間を待ちました。点灯前後1時間で40名以上は居たと思います。

「岩手に住んでいて3月に満開の桜を見れるなんて思いも寄らなかった」「車で2時間かけて来て、本当に良かった」「桜ラインの活動は知っていたが、実際に桜を見たのは初めてです」などのお言葉を聞くことができ、まずは知っていただくことができ大変嬉しく思いました。

桜を見上げるだけでなく、しっかりと看板に目を落とされていたのも印象的でした。私たちスタッフは浄土寺に常駐するわけにはいかず、対面での説明は難しいですが、桜がその存在意義を示し、声なきメッセージを皆さまに伝えてくれるものと期待しています。



【桜ライン311】津波到達地点のサクラをライトアップしたい!

未来の命を守るために津波到達地点のサクラをライトアップしたい!

目標金額 300万円
2月9日まで挑戦中

1,615,000円

151人

終了



実施場所	厭離山欣求院浄土寺(岩手県陸前高田市高田町洞の沢102-1)
照明機材設置数	9基
設置	2023年3月上旬 照明機材+サイン(看板)
ライトアップ実施日(恒久的)	3月11日(前後3日間)、桜の満開時期(3日間)、月命日



クラウドファンディングにご参加いただいた皆さま

市川哲也	久保田由夫	進藤桃子	流田和啓	一般社団法人プロトレ
株式会社edu edge	酒井敏彦	一般社団法人SAVE IWATE	長谷川伸	みちよ
音楽室さくら咲la	J.S.Foundation	寺井良夫	浜美樹	宮本真理子
金栗聡	白永葉瑠香	竹松友子	原野優	雪音
		内藤宏章	平林勇	吉岡香菜子

お詫び

大変多くの方にご参加いただきながら、すべてのお名前を掲載することができずお詫び申し上げます。個人情報の観点から本誌面への掲載は任意とし、確認できない方の掲載は控えさせていただきました。また、ゆうちょ銀行からご参加いただいた方につきましても同様に掲載を控えさせていただきました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

※ 順不同。敬称略。
※ 氏名掲載は任意となっており、インターネットサイトよりお申込みいただき、掲載氏名の明確な方を表記しています。

メディア掲載

新聞

2022年12月24日	河北新報社
2023年1月6日	東海新報社
1月29日	岩手日報社
3月12日	東海新報社
3月12日	岩手日報社
3月20日	岩手日日新聞社
3月31日	岩手日報社
4月2日	東海新報社

テレビ

3月11日	日本放送協会 盛岡放送局
3月11日	日本放送協会
3月31日	日本放送協会 盛岡放送局
4月4日	テレビ岩手
4月12日	IBC岩手放送

浄土寺ライトアップ 生中継

Web

3月31日	なびたび北東北
4月10日	J.S.Foundation



プロジェクト名:【桜ライン311】津波到達地点のサクラをライトアップしたい!

使用サイト: GoodMorning(寄付型)

実施期間: 2022年12月9日~2023年2月9日

目標金額: 300万円

ご報告内訳: インターネットによる参加

人数	151名
支援総額	¥1,615,000
GoodMorning支払手数料	¥159,885
(入金額)	¥1,455,115)
ゆうちょ銀行による参加	
人数	29名
支援	¥1,018,000
総数	
人数	180名
支援総額	¥2,633,000
(入金合計)	¥2,473,115)

毎月定額寄附制度 マンスリーサポーター

桜ライン311では、“桜の育て親”になってくれる方を募集しています。

マンスリーサポーターは、クレジットカードを使った寄附制度です。毎月、自分で決めた金額が自動で引き落とされるシステムのため、簡単に継続的な寄附ができるようになっています。

サポーターの方には、サポーター限定の桜ライン311ニュースレター（年2回）と、活動報告書（年1回）をお届けしています。変わりゆく陸前高田のまちと、桜ライン311の活動が身近に感じられる、情報満載の内容です。

また、特典としてあなただけのオリジナル会員証を発行しています。

1日 **100円**で
できること
(3,000円/月)



桜の苗木1本(3mサイズ)を植樹し、1年間守ることができます。

1日 **200円**で
できること
(6,000円/月)



学校植樹会を1回開催することができます。(3本植樹の場合) ※金額は任意での設定も可能です。

お手続きはインターネットからとなります

<https://www.sakura-line311.org/supporter>

- いただいたご寄附は上記内容だけでなく、苗木育成管理などの植樹事業や、講演を含む普及・啓発事業など、団体の事業運営のために使用いたします。
- 認定NPO法人制度に伴い、マンスリーサポーターは税控除の対象となります。(最大50%の減税対象) ご寄附の領収書は、毎年1月、前年の1月から12月までの期間を対象としてまとめ、年1回発行いたします。
- マンスリーサポーターの方のみ、個人のお名前を年間の活動報告書に掲載させていただきます。(希望者のみ)
- 一般のご寄附は、口座振込等にて承っております。詳しくはHPをご覧ください、事務局までお問い合わせください。

マンスリーサポーター

皆さまのあたたかい支えがあり第12期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- | | | | |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ MAKIKO ASAOKA ・ 浅葉 正美 ・ 安曇野 クロリン ・ 天田 輔 ・ 荒川 夏実 ・ 石川 洋一 ・ 石黒 裕次郎 ・ 今井 洋祐 ・ 岩崎 巨典 ・ 岩崎 政孝 ・ 岩田 達明 ・ 梅原 昌宏 ・ 及川 登美江 ・ 太田 海 ・ kazue omoto ・ 尾島 奈緒子 ・ 小原 仁 ・ 音楽室さくら咲 la ・ 株式会社 けいろん
代表取締役社長 長谷部蔵之進 ・ (株)タイム缶詰 吉田和生 ・ 株式会社 麺食
代表取締役社長 中原誠 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 信昭田加 ・ かどさか ・ 金澤 正浩 ・ 金光 結香 ・ 北村 規子 ・ 木村鉄筋工業 株式会社 ・ クシマモモヨ ・ 小高 英雄 ・ 後藤 良平 ・ 小針 光雄 ・ 小山 賢太郎 ・ 近藤 栄(さくら FM) ・ 齊藤 宏樹 ・ 阪上 浩 ・ 榊原 由紀子 ・ 佐々木 信秋 ・ 佐々木 雄太 ・ 笹野 絹代 ・ 塩田 哲男 ・ 篠原 知子 ・ 篠宮 武 ・ 下郷 悟 ・ 白田 佳子 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 須賀 信平 ・ 鈴木 佐知子 ・ 鈴木 正子 ・ 鈴木自動車 株式会社 ・ 高石 祐次 ・ 竹内 一将 ・ 竹嶋 美紀 ・ 武田 美代子 ・ 竹松 友子 ・ Team29一同 ・ 土山 隆宏・ 明代 ・ 栃木 由香 ・ 内藤 宏章 ・ 中村 顕子 ・ 永山 恵子 ・ 西和賀町立沢内中学校 ・ 原田 聡子 ・ 原田 亮 ・ 東 眞弓 ・ 平出 眞 ・ 廣野 孝男 ・ 福岡 千代子 ・ 福田 美知子 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤本 大祐 ・ 細田 伸之助 ・ 堀崎 薫 ・ 真下 行男 ・ 水澤 千秋 ・ 三谷 麻紀 ・ 森川 千恵 ・ 矢口 悦子 ・ やっさん ・ 柳澤 浩子 ・ 山神 孝志 ・ 山崎 哲哉 ・ 山科 威朗 ・ 山本 清美 ・ 横山 秀 ・ 吉原 隆成 ・ 和賀 彩子 |
|--|--|---|---|

※ 順不同、敬称略。

※ 第12期(2022/7/1~2023/6/30)に、任意でご支援いただいた方を掲載しています。未掲載の方で、来期の掲載をご希望の方は、メールにてご連絡ください。



東亜建設工業株式会社 土木本部 理事
盛岡三高同窓会関東支部会長
後藤 良平 様

立教大学での岡本代表のプレゼンを聴き、マンスリーサポーターになったのが最初。植樹は仙台への単身赴任を機に、最初は個人で参加。その後東京の盛岡三高同級生、会社の東北支店の有志、県内の現場職員、県内の三高同級生、知人と、少しずつですが輪が広がっています。桜ラインの完成を楽しみに、今後も継続参加します。



木村鉄筋工業株式会社
代表取締役 木村 大一 様

自分にできることはないかと震災直後に向かった陸前高田市。そこでのボランティア活動が終わり、まだまだ復興を見守りたい寄り添いたいと思う時に、桜ライン311を知りました。悔しい気持ちを味わったあの津波被害を後世に繋いでいく、という活動のおもいに感銘を受け、微力ではありますが、お手伝いをさせていただいております。

支援者さまからの声

活動を支えてくださる皆さま



生活協同組合おおさかパルコープ
嘱託職員(元常務理事) 松岡 賢司 様

震災直後より、被災地支援ネットワーク「遠野まごころネット」に加盟し、沿岸地域の支援活動を続けてきました。その中で、桜ライン311の団体を知り、植樹活動に大阪から多くの職員が参加させていただいています。岡本代表の想いと熱意が、私たちの支援活動の大きな柱になっています。引き続き、支援を継続していきます。



小さな草木染め工房 手楽木芸
草木染め職人 寺嶋 康平 様

桜ラインさんからいただいた桜の剪定枝を素材として桜染め体験や桜染めの商品を製作させていただいております。御社の真摯な取り組みや想いを桜の彩りを通して世の中に伝えていければと思います。今後も微力ながらお力添えできれば幸いです。「今ある桜の彩りは未来の桜の為に。」



学校法人白百合学園
盛岡白百合学園小学校 様

本校では、2020年度から3年間にわたり6年生の学習旅行で「桜ライン311」の活動について学ぶ機会を頂いております。震災の記憶がない子ども達が、皆様の地道な息の長い活動を知り、チャリボンなど自分ができるところを実行することで、震災を自分事として捉え、教訓を伝える担い手になってくれると思っています。



陸前高田市市長
佐々木 拓 様

桜ライン311の皆様には、震災の記憶を後世に伝えるため、桜の植樹や生育管理などに、永年にわたり活動いただいておりますことに心より感謝申し上げます。桜がつなぐ交流、絆が末永く続くことを祈念し、「悲しみを繰り返さない未来」に向けて、多くの皆様とともに桜ライン311の活動を応援させていただきます。



トリオグループ 様

東日本大震災発生の翌年、日本経済新聞に桜ライン311様の明確な活動目標が掲げられており、非常に感銘を受け、是非支援したいと思ったのがきっかけです。代表の岡本様には、弊社社員向けに震災の疑似体験と共に備えることの大切さをお話し頂く等、大変お世話になっております。これからも微力ながら支援させていただきます。



東北さくらライブプロジェクト
共同代表 澤向 美希 様

前年に続き2023年も、小田和正さんツアー岩手公演にて桜ライン311のみなさんと合同でブース出展をさせていただきました。小田さんファンの方々にも、ファンクラブ会報紙で佐藤一男さんが連載中の防災コラムとあわせてしっかり活動を認知していただいていることを実感します。継続は力なり。これからもできることを続けます。



陸前高田市立気仙小学校
校長 佐藤 健 様

毎年6年生の卒業記念植樹として、桜ライン311様による植樹を行っています。気仙町内各地に桜の木を植えさせていただきました。子どもたちは、自分たちが植えた桜の木の成長を見ながら、復興に思いを寄せ、震災の教訓を語り継いでいきます。生きた未来へのメッセージを、今後も発信し続けていきたいと思っています。



株式会社 ONE COMPATH
代表取締役社長 CEO 早川 礼 様

「桜ライン311プロジェクト応援マップ」の運営を通じた支援が11年を迎えました。地図上では、桜の年生、品種、植樹日などを確認し、成長を見守ることができます。定期的に植樹情報をお預かりし、桜が増えてゆくのを実感するたびに、この活動の意味と震災を風化させずに後世へ伝えるその大切さを改めて感じます。今後も微力ながら継続的な支援を行ってまいります。



有限会社ソラ (SORA)
営業企画部 ディレクター
広報担当 大竹 沙央里 様

桜並木を通して震災の記憶を後世に伝える活動に共感し、その活動をSORAの強みである「ものづくり」のイベントを開催することで支援しています。毎年イベントの開催を、楽しみにしていただいているお客様も増えており、この取り組みを継続することで震災の記憶を風化させないよう努めるとともに、今後もSORAは桜ライン311の皆様活動を支援していきます。



岩手大学
RTGC・陸前高田イタルトコロ大学事業
代表 五味 壮平 様

最近、「あ!ここにも桜ライン!」と気づくことが増えてきました。桜ライン311のみなさんが、この12年間、日々の地道な作業と苦勞を積み重ねながら、一本、また一本と桜を増やして、ついに2000本を超えたこと、本当にすごいことだと思います。継続そのものがとてつもない価値を持っていますね。これからも一歩ずつ歴史を重ねていってください。



愛知県 名古屋市
中西 孝子 様

東日本大震災において東北にボランティアに行くようになり、桜ライン311様の活動を知り、震災の記憶を後世にも伝える取り組みに感銘を受け、微力ながら桜の植樹会に参加させていただいております。コロナ禍で団体での植樹会への参加は難しくなっていますが、自分の体力が続く限り植樹会への参加を続けて行けたらと思います。桜ライン311の皆様のおかげで継続した活動ができる事、感謝申し上げます。



ユニリーバ・ジャパン 様

「後世に伝えたい」という持続的な理念に感銘をうけ、自社サクラ関連製品の売上の一部が寄付されるという形で支援を続けております。企業として日本の未来に貢献するだけでなく、消費者の皆さまにもお買い物を通じて気軽に社会貢献していただける機会を提供できることに、大きな価値を感じています。



日清丸紅飼料株式会社
東北支店 様

「桜ライン311」と「東北産ハーブ豚」のチャリティキャンペーンを開始し2年目となります。震災の記憶を後世に伝える活動に感銘を受け、ハーブ豚生産者が東北にいらっしゃるご縁もあり、当社もチャリティキャンペーンを通して応援させて頂いております。今後も微力ながらチャリティキャンペーンを通じて桜ライン311の活動を応援して参ります。



キャピタルホテル1000株式会社
代表取締役社長 松田 修一 様

東日本大震災津波の記憶を後世に伝え残すため、約170kmにわたる津波到達ラインに17,000本の桜並木をつくるという大業を掲げ、これまで多くの方々の手で2,133本の植樹が完了(本年4月現在)し、着実にラインが延びていると伺っております。皆様の地道なご努力に敬意を表するとともに感謝申し上げます。微力ながら今後も応援いたします。



岩手県 一関市
原野 優 様

東日本大震災後、陸前高田でのボランティア活動に参加する中で『桜ライン311』の活動を知りました。津波によって失われてしまった命は戻らない、過去の悲惨な歴史を後世に語り継ぎ津波到達点を示すことで救える命がある。素晴らしい取り組みです。これからもいろいろな形で応援します。共に頑張りましょう!

支援者さまからの声

地元で活動を支えてくださる皆さま
地権者の皆さま



気仙町 地元参加者
菅野 光江 様

公園や学校には必ずあった思い出の桜並木、あの日から、春に見ることが出来なくなり悲しかったですが、今は桜の植樹が進み美しい花を咲かせています。植樹会は海に向かっての黙祷から始まり亡くなられた方々を偲び植えました。植樹の準備や管理などスタッフの皆さんに感謝致します。そして桜並木に囲まれたより美しい町の風景を楽しみにしております。



竹駒町 地権者
熊谷 省二 様

津波到達地点に桜を植樹したいとの話があった。すぐ地権者連絡して了解をもらった。これから春になると桜の花を愛で、散歩や花見が出来たろう。この桜はNPO「桜ライン311」が植樹したもの。今後東日本大震災以上の大津波が予想される。その時は桜の木より高台に逃げる目安となることだろう。大変ありがとうございました。



竹駒町 地権者
松野 浩二 様

東日本大震災も風化しつつあるのかな？と思っていた頃の桜の植樹。スタッフそしてボランティアの皆様には本当に感謝です。自分自身被災し津波を目の当たりにした者としては、この悲惨な出来事をできれば忘れたい。でも震災の記憶がほとんど無い子供達に伝えていく事が大事だと思い、この桜ライン311活動最高です。思いはひとつ…未来の為に。



高田町 地権者
佐々木 善健 様

2023年3月に桜を植樹していただいた場所は、震災前は自宅があり嵩上げした場所です。氏神さまは、現在も先祖代々の土地を見守っており、この場所にいると昔にもどる自分がいて大切な場所です。だからこそ津波到達地点でもあるこの場所に植樹をしていただきました。桜が咲くのが今から楽しみです。スタッフの皆さま、今後ともよろしくお願いたします。



米崎町 地権者
菊池 清子 様

「津波到達地点」として誰もが驚く我が家の庭先に桜を植樹してもらいました。アブラムシ駆除等、一生懸命に命をつなぐ桜ラインの皆さんに感謝しつつ、後に解散せざるを得なかった私たち米崎町旧16区のある日を私の日記から紹介。2012年4月28日「お花見会を16区として開催。天候に恵まれ夫政雄が用意してくれた青空座敷で、お茶っこ、もち。笑顔が満開になりました。」



広田町 地権者
佐々木 伸 様

出会いは共通の友達が連れて来たことがきっかけで話を聞いているうちに共感したので家の敷地内ならと桜の植樹を許可しました。この後、桜ラインさんは植樹に向けて下調べは元より、桜に対しての情熱や知識の高さを感じました。植樹後は、定期的な巡回草刈作業をし、桜に対しての成長を即し、今後この桜を見ることであの時の事を後世に伝えるという役目のある桜です。

テレビ

2022年 11月21日	テレビ岩手
12月14日	日本放送協会 盛岡放送局
2023年 2月11日	日本放送協会
3月 4日	日本放送協会 盛岡放送局
3月 9日	日本放送協会 盛岡放送局
3月 9日	岩手朝日テレビ
3月10日	中京テレビ
3月10日	岩手朝日テレビ
3月11日	岩手朝日テレビ
3月11日	めんこいテレビ
3月11日	日本放送協会 盛岡放送局
3月11日	日本放送協会
3月11日	日本放送協会
3月11日	東京メトロポリタンテレビジョン
3月28日	日本放送協会 盛岡放送局
3月29日	日本放送協会 盛岡放送局
3月30日	岩手朝日テレビ
3月31日	日本放送協会 盛岡放送局
4月 4日	テレビ岩手
4月12日	IBC岩手放送

ラジオ

2023年 3月23日	東京FM放送株式会社
4月 6日	北上ケーブルテレビ株式会社

web

2022年 7月 7日	名城大学	3月31日	なびたび北東北
9月 1日	大阪市福島区役所	4月 3日	株式会社オーナー
9月 6日	復興庁	4月 5日	UAゼンセン
9月21日	郁文館夢学園 郁文館中学校	4月 7日	東晶貿易株式会社
10月11日	株式会社オーナー	4月10日	J.S.Foundation
11月30日	ローカル女子と未来をひらくプロジェクト COMADO		
2023年 2月11日	ヤフー株式会社		
2月11日	一般社団法人共同通信社		
2月11日	株式会社NTTドコモ		
3月 1日	株式会社オーナー		

web (YouTube)

2022年 9月24日	株式会社IR Robotics
10月 7日	岩手県庁

雑誌・その他

2022年 8月26日	名城大学通信vol63
8月29日	NPO法人教育支援協会東海 中学生がリーダーに変わる瞬間～子どもたちだけで挑んだ名古屋市ビックイベント成功の軌跡～
8月31日	NPO活動交流センター いわたのNPO・ボランティア活動情報誌PINばいん
9月23日	日本デザイン振興会 東日本大震災とグッドデザイン賞2011-2021 復興と新しい生活のためのデザイン
10月12日	株式会社古今書院 つながりの地理学～マイノリティと周縁からの地誌
12月20日	日本民話の会 聴く語る創る 第29号「東日本大震災 十年が過ぎて」
2023年 3月 9日	社会福祉法人中日新聞社会事業団 東日本大震災復興事業 読者から熱い思いを東北へ!
3月10日	生活協同組合ならコープ 植樹会参加レポート
3月20日	日本民話の会通信No.265
4月 5日	陸前高田市役所 広報りくぜんたかた 草木染め講座開催
6月16日	特定非営利活動法人福祉フォーラム・東北 朝日のあたる家のあゆみ～未来に向けて共に支え合った10年の軌跡～
6月25日	川口印刷工業株式会社 rakra 北東北の楽しい暮らしを提案するエリアマガジン7・8月号

年間活動実績

2022年7月1日～2023年6月30日

- 2022 7 活動 桜のお手入れ会 募集開始 講演 武田薬品工業株式会社 陸前高田視察
- 講演 名城大学 Book-aid主催 基調講演「東日本大震災から10年-未来へ命をつなぐ-」
- 講演 花巻市立南城中学校 被災地訪問
- 活動 小田和正ツアー仙台公演 東北さくらライブプロジェクト主催によるブース出展 (2日間)
- 活動 新スタッフ 入局
- 活動 Yahoo! ネット募金×ズバトク企画「寄付でPayPayポイントプレゼントキャンペーン」開始
- 講演 郁文館夢学園郁文館中学校 陸前高田研修
- 講演 株式会社高田松原主催 被災地訪問学習(大阪府福島区中学生)
- 講演 大阪教育大学FILM 震災復興学習
- 講演 陸前高田市教育委員会主催「名古屋市絆交流with Sプロジェクト」
- 活動 陸前高田市立高田第一中学校 職場体験受け入れ (2日間)
- 活動 Yahoo! ネット募金×ズバトク企画「寄付でPayPayポイントプレゼントキャンペーン」終了
- 活動 桜のお手入れ会 募集終了
- 講演 いわて未来づくり機構主催「令和4年度第2回いわて復興未来塾」
- 講演 陸前高田イタルトコロ大学 ユニバーサル就労マニュアル制作
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「買取価格10%アップキャンペーン」開始
- 講演 奈良ロータリークラブ 講演会&現地視察
- 講演 花巻市立西南中学校 震災復興学習&桜のお手入れ会
- 活動 岩手県立大東高等学校 職場体験受け入れ (2日間)
- 講演 盛岡白百合学園小学校 復興教育 オンライン開催
- 講演 福岡市東区災害対策関連会主催「被災当事者として日本の災害の現状と防災/減災の課題」オンライン開催
- 講演 盛岡市立厨川中学校 宿泊研修「深めよう!防災『知識』と『意識』と『仲間の絆』」
- 講演 盛岡白百合学園小学校 学習旅行 現地視察
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「リサイクルも。リユースも。530 (ゴミゼロ) キャンペーン」開始
- 講演 住友商事株式会社 Sumitomo Executive Program2022～東北フィールドトリップ～
- 講演 株式会社日本政策金融公庫主催 大船渡市ソーシャルビジネスネットワークセミナー
- 活動 桜のある生活講座～桜ライン311の桜を使って草木染めをしよう!～開催
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「リサイクルも。リユースも。530 (ゴミゼロ) キャンペーン」終了
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「買取価格10%アップキャンペーン」終了
- 講演 陸前高田市立米崎小学校 植樹会事前講話 講演 上尾市役所 陸前高田視察
- 植樹 陸前高田市立米崎小学校 学校植樹会 植樹 秋の植樹会 開始
- 活動 名古屋市防災危機管理局主催 名古屋市市民交流団 防災交流
- 活動 武田薬品工業株式会社 危機管理研修 活動 陸前高田市立気仙小学校 植樹会事前講話
- 植樹 陸前高田市立気仙小学校 学校植樹会 講演 宗像市・福津市消防団 現地視察
- 講演 武田薬品工業株式会社 危機管理研修
- 講演 一般社団法人マルゴト陸前高田主催 国際基督大学大学院 現地視察
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「#本で寄付するチャリボン 10%アップ&Twitterキャンペーン」開始
- 植樹 陸前高田市立小友小学校 学校植樹会 講演 一関市立桜町中学校 講演会&学校植樹会
- 活動 クラウドファンディング「津波到達地点のサクラをライトアップしたい!」開始
- 植樹 秋の植樹会 終了 講演 岩手県立住田高等学校 地域創造学「自分たちの地域を知る」
- 講演 いわき市役所主催「いわき市NPOサポートセミナー」
- 植樹 理事植樹会 活動 第2回 桜のある生活講座～桜で草木染めをしよう!～開催
- 活動 ユニリーバ・ジャパン株式会社「サクラドリーム」販売開始
- 活動 新人事制度構築のための人事評価制度合宿 (2日間)



リサイクルも。リユースも。530 寄付金530円以上で! 2022.10.20 - 10.31! charbon

- 12 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「#本で寄付するチャリボン 10%アップ&Twitterキャンペーン」終了
- 2023 1 活動 ユニリーバ・ジャパン株式会社 ラックス公式Twitter「#LuxCherryBlossom リツイートキャンペーン」開始
- 講演 ふくしま地域活動団体サポートセンター主催「地域力講座～地域の魅力と発想の転換!ネットワークを活用しよう～」
- 活動 ユニリーバ・ジャパン株式会社 ラックス公式Twitter「#LuxCherryBlossom リツイートキャンペーン」終了
- 活動 トルコ大地震義援金 開始
- 活動 クラウドファンディング「津波到達地点のサクラをライトアップしたい!」終了
- 講演 名城大学ボランティア協議会 復興学習
- 活動 Diptyque Japan株式会社「限定版 フレグランスキャンドル Fleur de Cerisier」販売開始
- 活動 第3回 桜のある生活講座～桜で草木染めをしよう!～開催 (2日間)
- 講演 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター主催「とうほくNPOフォーラムin仙台2022」
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「『寄付をはじめよう』キャンペーン」開始
- 活動 ヤフー株式会社×LINE株式会社「3.11これからも、できること。」開始
- 活動 有限会社ソラ「桜並木を作るチャリティーキャンペーン」開始
- 講演 認定特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 社内講演会 植樹 春の植樹会 開始
- 活動 日清丸紅飼料株式会社「ハーブ豚×桜ライン311 東北に桜を」販売開始 (沖縄県)
- 講演 成蹊大学学生ボランティア本部Uni.復興支援プロジェクト 講演会
- 講演 いわて生活協同組合主催「東日本大震災を忘れない、防災・減災学習会」
- 活動 浄土寺(高田町)の桜 追悼ライトアップ実施 (3日間)
- 講演 トリオシステムプランズ株式会社「チャリティゴルフコンペ前夜祭」
- 講演 生活協同組合おおさかパルコープ主催「くらしの公開講座」
- 活動 日清丸紅飼料株式会社「ハーブ豚×桜ライン311 東北に桜を」販売開始 (東海地方)
- 活動 ヤフー株式会社×LINE株式会社「検索は、チカラになる」実施
- 活動 ヤフー株式会社×LINE株式会社「3.11これからも、できること。」終了
- 活動 有限会社ソラ「桜並木を作るチャリティーキャンペーン」終了
- 講演 NHK盛岡放送局、岩手日報社、東海新報社共催「震災報道を考える～若手記者座談会～」
- 講演 植樹 岩手県立大東高等学校 講演会&学校植樹会
- 活動 第4回 桜のある生活講座～桜で草木染めをしよう!～開催
- 講演 名古屋市役所主催 名古屋絆の日「震災伝承とまちづくり 17000本の桜に託す思い」
- 講演 UAゼンセン 社内向け講演会 植樹 春の植樹会 終了
- 活動 トルコ大地震義援金 終了
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「『寄付をはじめよう』キャンペーン」終了
- 活動 浄土寺(高田町)の桜 満開ライトアップ実施 (3日間)
- 植樹 理事植樹会
- 活動 株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新
- 活動 小さな草木染め工房 手染木芸 桜の草木染めチャリティー商品販売開始
- 活動 Diptyque Japan株式会社「限定版 フレグランスキャンドル Fleur de Cerisier」販売終了
- 活動 トルコ大地震義援金 日本赤十字社「2023年トルコ・シリア地震救援金」口座へ送金
- 講演 モナミの会 現地視察 講演 陸前高田市立竹駒小学校 復興教育
- 講演 国立大学法人岩手大学「地域おこし論」
- 講演 おおさかパルコープ 新人協職員 合宿免許取得/岩手復興支援ボランティア
- 講演 郁文館夢学園郁文館高等学校PBLツアー
- 活動 桜のお手入れ会 募集開始
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「梅雨なので」キャンペーン開催
- 講演 陸前高田市立高田小学校 震災復興学習 講演 花巻市立南城中学校 復興学習
- 活動 株式会社バリューブックス チャリボン「梅雨なので」キャンペーン終了



支援法人・団体

- 上尾市役所
- アットホーム デイサービスようこそ
- アパッセたかた
- アマゾンインク
- E.A.U 株式会社
- 飯田市立飯田東中学校
- 市川若宮道院
- 一関市立桜町中学校
- 一般財団法人 日本老人福祉財団
- 一般財団法人 日本老人福祉財団佐倉
(ゆうゆうの里)
- 一般社団法人 マルゴト陸前高田
- 一般社団法人 陸前高田市観光物産協会
- 一般社団法人 トナリノ
- 伊藤ハム米久ホールディングス 株式会社
- 医療法人 小原クリニック
- いわき市役所
- 岩手県立大船渡東高等学校
- 岩手県立住田高等学校
- 岩手県立大東高等学校
- 岩手県立高田高等学校
- 岩手県立高田松原津波復興祈念公園
管理事務所
- 岩手県立花巻農業高等学校
- いわて生活協同組合
- いわて未来づくり機構
- 宇田森
- エイブル FC小牧店 株式会社アルヴェスタ
- A.cafe
- 愛媛県立八幡浜高等学校 防災地理部
・文芸新聞部
- FJホールディングス 株式会社
- 大倉山うたごえサロン
- 大阪教育大学 FILM
- 岡崎桜まつり太鼓フェスティバル
実行委員会
- おかし工房 木村屋
- 大人のための絵本会@桑名
- 東日本大震災被災地復興支援おうえん
コンサート
- お花見茶会有志一同
- オリジナルショップ Rise
- 音楽室さくら咲 la
- 株式会社 アイ・ディ・ケイ
- 株式会社 empowership
- 株式会社 大淀開発
- 株式会社 カルミア
- 株式会社 グリーパル
- 株式会社 古賀建設
- 株式会社 STYZ
- 株式会社 セントラル工業
- 株式会社 高田松原
- 株式会社 ナガイホシ
- 株式会社 日本政策金融公庫
- 株式会社 バリューブックス
- 株式会社 ファー・イースト・クラブ
- 株式会社 富士住建
- 株式会社 三浦太鼓店
- 株式会式 ミチノク
- 株式会社 みちのりトラベル東北
- 株式会社 麺食
- 株式会社 薬王堂
- 株式会社 山十 伊東文具店
- 株式会社 ロードアンドスカイ
- 株式会社 ONE COMPATH
- かき小屋 広田湾
- 菓子司 東海堂
- 学校法人 郁文館夢学園 郁文館中学校
・高等学校
- 学校法人 清泉女学院
清泉インターナショナル学園
- 学校法人 関西大学 東京センター
- カフェフードバー わいわい
- Cafe レストラン クローバー
- KAMIKIRISALON ひみつきち
- 川の駅 産直よこた
- 顔晴っぺ！とうほく元気プロジェクト
- 菊池畳店
- 北上駅東口都市開発 株式会社
- 北上市立東陵中学校
- 岐阜県立国際園芸アカデミー 学生会
- 木村鉄筋工業 株式会社
- キャピタルホテル1000 株式会社
- 共愛学園 こども園
- 京都市教員チーム
- 京都市立深草中学校
- 清瀬・久留米民主商工会
- きりん
- gooddo 株式会社
- 熊谷珈琲店
- グランシエロ北越谷アローム自治会
- 公益財団法人 パブリックソース財団
- 公益社団法人 国土緑化推進機構
- 合同会社 セレン
- 国際基督教大学
- 国立大学法人 岩手大学
- コワーキングスペース ヤドカリ
- 坂部健康院
- 桜は八重に咲き誇りけり
- 桜ライン311 in 絆
- 桜ライン311 陸前高田の桜を見守る会
有志
- SAKE' S BAR 酒場 THE 陸丸
- SAZAIE 株式会社
- サロンドロワイヤル タカタ本店
- 産直はまなす 陸前高田
- J.S.Foundation
- 四海楼
- しちふくろう
- 島崎 株式会社
- 市民生活協同組合 ならコープ
- ジャズ喫茶 h.イマジ
- ジャズタイムジョニー
- 社会福祉法人 中日新聞社会事業団
- 社会福祉法人 松田町社会福祉協議会
- 宗教法人 天理教藤ノ上分教会
- 旬味旬彩 鮎まつ田
- 少林寺拳法グループ
- 食堂カフェ 仙華園 × クレープ仙華園
- 住田町教育委員会

皆さまのあたたかい支えがあり第12期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- 住友商事 株式会社
- 生活協同組合 おおさかパルコープ
- 成蹊大学学生ボランティア本部 Uni.
復興支援プロジェクト
- 全トヨタ販売労働組合連合会
- 全トヨタ労働組合連合会
- 武田薬品工業 株式会社
- タヤマスタジオ 株式会社
- 小さな草木染め工房 手楽木芸
- 中華食堂 熊谷
- 長南ビブリオカフェ実行委員会
- Diptyque Japan 株式会社
- Dexerials Precision Components 株式会社
- 東亜建設工業+盛岡三高 OB
- 東亜建設工業 株式会社 東北支店
- 遠野市遠野町第15区自治会民生防災部
- 特定非営利活動法人 アットマーククリアス
NPOサポートセンター
- 特定非営利活動法人 育桜会
- 特定非営利活動法人 NPOサポートセンター
- 特定非営利活動法人 KIプロジェクト
- 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
- 特定非営利活動法人 スマイル工房
- 特定非営利活動法人 日本全国志士協義会
- 都市開発リサーチ 株式会社
- 鳥取県立八頭高等学校
- 豊田市立小原中学校
北東北統括支社
- トヨタモビリティパーツ 株式会社
- 豊中市消防局
- トリオシステムプランズ 株式会社
- トレンジマイクロ 株式会社
- 名古屋市役所
- 名古屋市立桜台高等学校 生徒会
- 奈良・佐保川桜まつり燈火会実行委員会
- 奈良ロータリークラブ
- 新潟さくら倶楽部
- 西和賀町立沢内中学校
- 日清丸紅飼料 株式会社
- ニューサイクリング図書館
- ニュートンワークス 株式会社
- 認定特定非営利活動法人 日本
NPOセンター
- 認定特定非営利活動法人 ふくしま
NPOネットワークセンター
- 認定特定非営利活動法人 ワールド・
ビジョン・ジャパン
- のうとみ整骨院 患者一同
- はちどりのひとしずく
- 花と緑のまち三鷹創造協会
花壇ボランティア
- 花巻市立太田小学校 児童会
- 花巻市立西南中学校
- 花巻市立南城中学校
- 東通村立東通中学校
- 埼玉県日高市立高萩中学校 吹奏楽部
- ヒューマン RG
- 広眺ヶ丘サロン・ミタ五々
- 福井県民生活協同組合
- 福井市ボランティア連絡協議会
- 福岡市東区災害対策関連会合
- ふくしま地域活動団体サポートセンター
コミュニティセンター
- 福津市 消防団
- Book-aid
- フルまるリフォーム
- プレーメンホームベーカリー
- ペンション福田
- 北海道大学 教育学部
- ほのぼのサロン
- ボランティアチームゴールド埼玉
- Me Project
- 道の駅 高田松原
- みちのく秋田チャリティーラン実行委員会
- 緑のリサイクルソーシャルエコ
プロジェクトチーム
- 宗像市消防団
- 宗像地区連絡協議会
- 名城大学
- 名鉄観光サービス労働組合
- モナミの会
- 学校法人白百合学園 盛岡白百合
学園小学校
- 盛岡市立厨川中学校
- 盛岡中央ロータリークラブ
- ヤフー 株式会社
- やぶ屋
- 有志ボランティア Standing Together
- 有限会社 上町珈琲
- 有限会社 ソラ
- 有限会社 吉野屋商会
- UAゼンセン
- 湯河原駅前通り 明店街
- ユニリーバ・ジャパン・カスタマー
マーケティング 株式会社
- LINE 株式会社
- 陸前高田 発酵パーク CAMOCY
- 陸前高田 イタルトコロ大学
- 陸前高田 グローバルキャンパス
- 陸前高田 市教育委員会
- 陸前高田 市コミュニティホール
- 陸前高田 市広田地区
コミュニティセンター
- 陸前高田 市民文化会館
奇跡の一本松ホール
- 陸前高田 市役所
- 陸前高田 市ユニバーサル
就労支援センター
- 陸前高田 市立小友小学校
- 陸前高田 市立気仙小学校
- 陸前高田 市立高田小学校
- 陸前高田 市立竹駒小学校
- 陸前高田 地域振興 株式会社
- 陸前高田 まちづくり協働センター
- 陸前高田 まちなか広場 交流施設
「ほんまのの家」
- リコー社会貢献クラブ・FreeWill
- 和太鼓 Do-Da
- ワタミオーガニックランド株式会社

※五十音順、敬称略。

※対象期間は第12期(2022/7/1～2023/6/30)になります。

※振込名称及び受領書宛名、参加団体名をもとに作成しています。

※法人名、団体名、アーティスト名などが対象です。個人名につきましては控えさせていただきます。

※ご寄附(協賛・苗木・他)、ご参加(植樹会・草刈会)、講演関係、地域協力店(会場・地図設置・募金箱設置)

会計報告

認定特定非営利活動法人桜ライン311 2022年度会計報告

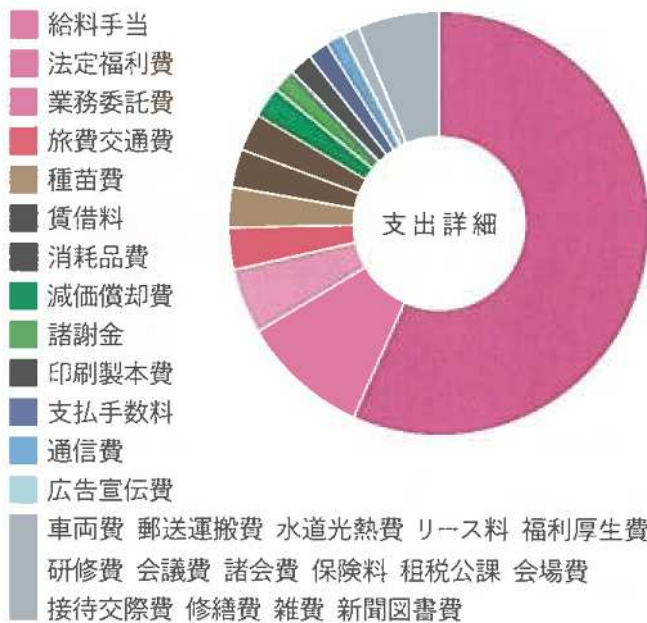
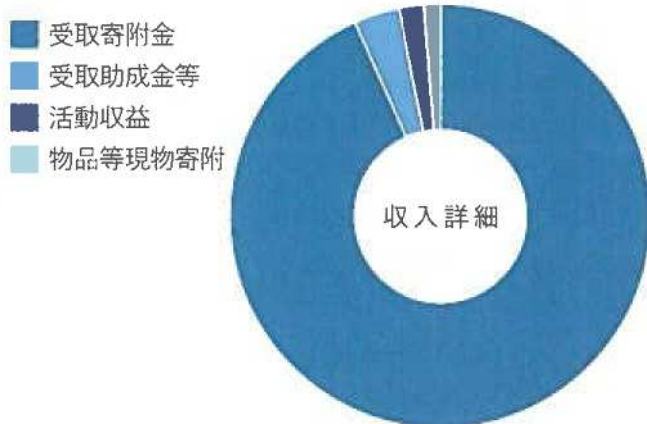
【事業期間】2022年7月1日より2023年6月30日まで

総額	前期現金預金等繰越額	46,275,934
	当期収入総額	41,214,742
	当期支出総額 ^{※1}	61,794,937
	当期正味財産増減額	-20,580,195
	今期現金預金等繰越額	25,695,739

※1 活動基金への積立を含みます。

収入詳細	受取会費	0
	受取寄附金	38,460,078
	物品等現物寄附	541,200
	受取助成金等	1,452,966
	活動収益	760,269
	受取利息	229
	合計	41,214,742

支出詳細	給料手当	23,643,111
	法定福利費	4,113,238
	福利厚生費	199,199
	広告宣伝費	562,194
	接待交際費	41,778
	会議費	172,064
	旅費交通費	1,327,222
	通信費	575,825
	消耗品費	1,169,611
	修繕費	28,160
	水道光熱費	367,208
	新聞図書費	2,260
	郵送運搬費	398,016
	諸会費	126,100
	支払手数料	680,462
	車両費	504,515
	賃借料	1,209,100
	リース料	365,280
	保険料	96,360
	租税公課	62,300
	減価償却費	1,007,585
	雑費	3,600
	諸謝金	765,000
	印刷製本費	718,914
	会場費	58,640
	種苗費	1,309,082
	研修費	182,880
	業務委託費	2,105,233
	合計	41,794,937



※2 桜ライン311 活動基金

桜ライン311 各事業への将来利用を目的として、理事会にて積立 / 取崩し / 管理される基金です。尚、当基金は100%事業への使用となります。

※ 直近年度の詳細な事業報告等書類につきましては、桜ライン311の団体HPよりダウンロード可能となっております。ダウンロード可能な各書類は、「認定NPO法人等の情報公開」に基づき、「活動報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録、注記事業別経費の状況」の5点です。ご要望いただければこちらから印刷してお送りすること、過去の決算書のご提供も可能です。その際は事務局までご連絡ください。

桜ライン311 活動基金^{※2}

前期繰越特定資産	103,035,365
受取利子	870
今期資産額	20,000,000
今期特定資産総額	123,036,235

組織概要

2023年6月末現在

正式名称	認定特定非営利活動法人 桜ライン311
代表理事	岡本 翔馬
設立	2011年10月16日
法人格取得	2012年 5月 1日
認定NPO法人取得	2014年 5月 1日 (更新2019年5月1日)

役員	代表理事	岡本 翔馬
	副代表理事	伊勢 友紀 (事務局スタッフ兼任) 中井 勝義
	理事	松田 恵美子 東平 享浩 小川 光一
	監事	石井 宏明 在間 文康
	事務局長	佐々木 良麻
	事務局スタッフ	佐々木 正也 矢作 彩子 佐藤 一男 太田 海 嶋村美和

受賞歴

2012年	公益財団法人日本さくらの会 一般財団法人日本ファッション協会 日本クリエイション賞	公益財団法人日本さくらの会 平成29年度さくら功労賞
2014年	公益財団法人日本デザイン振興会 GOOD DESIGN AWARD 2014 金賞	「東北みらい創りサマースクール」実行委員会 第6回東北みらい賞
2015年	一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞	2018年 株式会社毎日新聞社 第7回「地球未来賞」クボタ賞
2016年	公益財団法人ソロプチミスト日本財団 社会ボランティア賞	吉野正芳復興大臣より感謝状 授与
2017年	国土交通省手づくり郷土(ふるさと)賞 一般部門グランプリ	2022年 令和3年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰

